

動物愛護フェスティバルを振り返って

安田圭一郎† (安田獣医科病院院長・大阪府獣医師会会員)

大阪動物愛護フェスティバルは、関係諸団体並びに獣医師会会員の方々のご理解とご協力のもと1985年より開催し、途中諸事情により開催できなかった年もあるが、今年で第27回を迎える。

社団法人大阪府獣医師会（以下、「府獣」という）と公益社団法人大阪市獣医師会（以下、「市獣」という）が主催し、大阪府・大阪市の共催、環境省近畿地方環境事務所、公益社団法人日本動物福祉協会、全日本獣医師協同組合の後援にて開催されている。

以前は府獣と市獣が各々独自で開催していたが、ここ8年間は府獣と市獣が交互に協力しながら担当している。現在、橋下 徹大阪市長により大阪都構想が提唱されているが、府市が協力し合うことは、十分にメリットのあることだと思う。

この事業は、「動物の愛護及び管理に関する法律」の精神に則り、“みんなともだち 地球の仲間”をメインテーマに、人と動物のより良い関係を目指して、動物愛護精神の高揚と動物の適正飼育について理解を深めることを目的としている。

昨年は、動物愛護週間に合わせて9月に大阪市中央公会堂において記念セレモニーと一般講演、長寿動物表彰、動物絵画の展示を行った。11月に大阪城公園において、動物慰霊黙祷、盲導犬・警察犬のデモンストレーション、アジリティードッグ実演&競技、ワンちゃんしつけ教室、獣医師による動物健康相談、スタンプラリー、ペット関連用品の即売コーナー、サンプル配布、プラスバンド演奏、チアリーダーダンスなど各種イベントを行い、また協賛企業や獣医師会の会員が各種模擬店を出展して会場内を賑わせた。イベント事業を11月に開催したのは、9月・10月だとペット同伴で来場された場合に、ペットが熱中症を起こすことに配慮したからである。今後は、介助犬のデモンストレーションもイベントに取り入れていきたい。

昨年は、東日本大震災で被災し、飼い主と離れてしまい救いの手を必要としている動物たちのために、東日本大震災動物救護支援義援金を募集すると共に、リストバンドを作製し会場内にて販売し、その収益を福島県動物救護本部に寄付した。

長寿動物表彰では、大型犬種または体高50cm以上の雑種犬の場合14歳以上、中・小型犬は16歳以上、猫は18歳以上を対象とした。長寿犬約160頭、長寿猫約120頭の趣向を凝らした写真を会場内スクリーンに映しながら、コメントを添えて紹介した。

昨年度の最長寿犬は19歳、最長寿猫は26歳だった。年々ペットの長寿化が進み、20歳を越える犬猫が増えていることに驚かされる。加えて大阪府下の動物園の長寿動物も表彰紹介した。

昨年の一般講演では、佐々木文彦 大阪府立大学名誉教授による「やさしいシニアドッグライフ」と細井戸大成 市獣副会長による「東日本大震災における動物達の現状」を講演いただいた。

大阪城公園では、ペットを同伴した多くの飼い主や一般客が8,000人程集まり、好評を得た。年々動員数が増えていることはうれしい限りである。

しつけ教室では、犬が苦手な人もいる社会の中でみんなが快適に気持ちよく共存できることを大きな目標に、社会における犬の飼い主としてのマナー向上のためのしつけ方のコツをステージにて講演、デモの後、ステージ前のスペースにて飼い主参加型の実習を行い、来場の愛犬家の皆様に楽しく、愛犬との生活に役立つ情報・時間を提供できるように努めた。「ハッピードッグライフ～愛犬との生活の楽しみ方～」や「準備できています

安田 圭 一 郎

一 略 歴

1979年 日本獣医畜産大学(現日本生命科学大学)卒業
同 年 小動物病院勤務
1982年 大阪府にて安田獣医科病院開業
(社団法人大阪府獣医師会開業部会会員)



・大阪動物愛護フェスティバル合同委員会
2008年 副委員長 2009年 委員長
2010年 副委員長 2011年 委員長

† 連絡責任者：安田圭一郎 (安田獣医科病院)

か？ペットの防災」についても、講演・デモが行われた。

この事業は、公益社団法人格取得の核となる位置づけであり、限られた予算の中、盛り沢山の催しの中で、単にお祭り騒ぎだけで終わらぬよう創意工夫を凝らしたつもりである。今後も継続開催し、さらに人と動物の共生を目指す活動の輪が広がることを願う。

今後も獣医師活動の中で、真の動物愛護・人と動物のあるべき未来を考え、より一層の動物愛護精神の普及啓発に努めていきたい。

最後に、フェスティバル事業を無事終えることができたのは、多くの方々のご支援ご協力のおかげであると、心より感謝申し上げたい。